

ポリシーブック  
～盟友の思いを実現させるために～



鳥取県農協青壮年連盟  
2023年版

# JA 青年組織綱領

我々JA青年組織は、日本農業の担い手としてJAをよりどころに地域農業の振興を図り、JA運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、JA青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

## 1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

JA青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

## 1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

## 1. われらは、自らがJAの事業運営に積極的に参画し、JA運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えたJAの発展のため、自らの組織であるJAの事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しいJA運動を探求し、実践する。

## 1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

JA青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

## 1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

JA青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈) 本綱領は、JA全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川5原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立50周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべきJA青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成17年3月10日制定)。

## JA鳥取県青壮年連盟の概要

JA鳥取県青壮年連盟は、鳥取県内3つのJA青壮年部を会員とし、農業をよりどころとして豊かな地域社会を築くことを目的に設立された組織で、鳥取県の農業を担う294名の盟友がいます。

JA青年組織綱領に基づき、国民と豊かな食と環境の共有をめざし、さらに、国民との相互理解に基づく政策提言や食農教育、地域リーダーの育成などの活動を行っています。

## ポリシーブックとは

ポリシーブックを一言で表すと「JA青年部の政策・方針集」となります。JA青年部の盟友一人ひとりが営農や地域活動をしていく上で抱えている課題や疑問点を集約し、盟友同士で解決策を検討しており、盟友の声がそのまま文章になっているのが大きな特徴です。

また、そこには要請することだけでなく、まず自分たちで解決に向けて努力し、取り組むことが明記されています。つまり、「自分たちの行動目標」と「積み上げによる政策提案」の両方を備えたものがJA青年部の「ポリシーブック」となり、鳥取県では2013年から作り始め、毎年更新し続けています。

## ポリシーブックの活用とこれまでの活動

ポリシーブックは、本連盟の活動計画の基として、また国会議員や県行政への要請活動等のツールとして活用しています。

本連盟の活動においては、青壮年部の一体感を出し、外部に向けて取り組みをPRするために統一ジャンパーを作成しました。また、自然災害に係る取り組みについて学びたいという声から、島根県農協青年組織協議会を招いた学習会・ディスカッションを実施したり、農業経営において重要となるインボイス制度について学びたいという声に応え、税理士を外部講師とした研修会を開催しています。さらに、組織の活性化に取り組むと決めた際には、近年行っていなかったスポーツ大会を復活させ、県下の支部をまたいだ盟友間の交流イベントも開催しています。

一方で、要請活動等のツールとしては、毎年10月頃に行われる全国会議において、本県選出の国会議員を訪問しポリシーブックを基にした要請活動を実施したり、県農林水産部の幹部職員や中国四国農政局との意見交換の資料として活用し、盟友の声を国・県へ伝えていきます。



島根県青協との意見交換



インボイス制度研修会



スポーツ大会（ボッチャ）



国会議員への要請活動

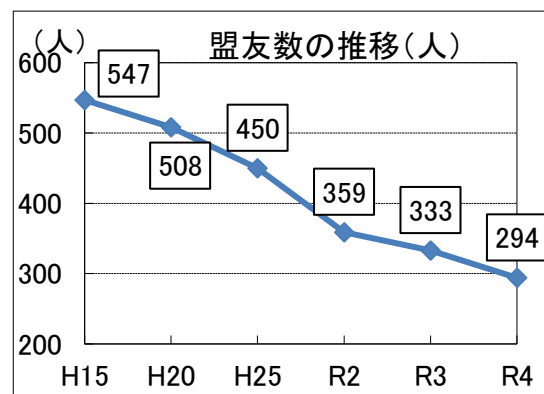
## 目次

1. 組織の拡大・活性化について . . . . .	5
2. 自然災害対策について . . . . .	6
3. 鳥獣被害防止対策について . . . . .	7
4. 農業者の収入増加について . . . . .	8
5. 若手農業者の理事登用と農業経営支援について . . . . .	9
6. 青壮年部の活動支援と情報発信について . . . . .	10
7. 他の青年組織との連携について . . . . .	11

## 1. 組織の拡大・活性化について

### 現状・課題

- ① 盟友の新規加入に取り組んでいるが、盟友数は減少傾向にある。
- ② 新規就農者の情報を中々取得できず、就農初期での青壮年部勧誘や青壮年部としてのサポートが遅くなっている。
- ③ 青壮年部活動・JAについての理解不足や参加者の減少・固定化が進んでいる。
- ④ 青壮年部のメリットである仲間づくりをキーワードに、新規就農者含む盟友同士で交流、相談し合える組織とならなければならない。
- ⑤ 青壮年部の活動等を発信する資材がない。
- ⑥ 青年部活動を行うには、事務局の協力が必要不可欠である。
- ⑦ 本連盟70周年記念大会（令和6年度）、本県での中四国青年大会（令和7年度）の開催に向け、万全な体制を構築するとともに、大会を契機とした青壮年部活動の発展に繋げる必要がある。



### 青壮年部で行うこと

- 青壮年部の裾野を広げ、JA・青壮年部活動への理解を深める等、次代の青壮年部を担う盟友を育成する仕組みを作る。・・・①、③
- 農業の未来に希望が持てるような研修会・講演会をJAと連携して企画し、所属する生産部会の新規就農者などに盟友個々がアプローチして一緒に参画する等、参加しやすい環境を作る。・・・①、②、③、④
- WEBの活用等盟友の参加しやすい学習会等の開催を検討するとともに、盟友間で声掛けし、多くの盟友の参加を促す。・・・③、④
- 青年部活動を広報するために、活動紹介チラシを作成する。・・・⑤
- 70周年記念大会、中四国大会の開催に向け、運営委員会の設置等、体制整備を行う。・・・⑦

### JAへの要望

- 青壮年部がJAと連携した研修会・講演会を企画した際には、十分な支援を頂きたい。・・・①、②、③、④
- 農業者が参加しやすい時間帯にJAの主催する勉強会を開催する等、積極的に教育を受ける場の更なる充実を図って頂きたい。・・・③
- 事務局職員の育成と強化、青年部活動を行うのに適切な人員配置をして頂きたい。・・・⑥

### 行政への要望

- 新規就農者と青壮年組織との交流、情報交換のできる場を農林局単位で設定して頂きたい。・・・③

## 2. 自然災害対策について

---

### 現状・課題

- ① 近年大規模自然災害が発生しており、被害を受けた農業者の生産意欲の減退につながっている。
- ② 災害予測および発生時等に農業に特化した情報が欲しい。
- ③ 被災した際に早期に営農活動に復帰するための体制等が欲しい。

### 青壮年部で行うこと

- 例年、自然災害が多発する時期を見据え、自然災害対策研修会を時季に応じて開催する。・・・①
- 自然災害の発生に備えとして収入保険について学び、加入を検討する。・・・①
- J A・行政等が発信する情報を盟友間で積極的に共有する。・・・②
- 県内で被災した盟友・地域に対し、JA域を超えた復旧支援活動を行う。・・・③

### J A への要望

- 災害時に速やかに営農活動が再開できるよう、安定した資材の供給体制を構築して頂きたい。・・・①、③
- 営農活動を継続するために融資や補助金などの対応を早急に行って頂きたい。・・・②
- 各品目における自然災害対策についての情報発信や研修会を行って頂きたい。・・・①、②

### 行政への要望

- 農業に関する気象災害の情報発信を充実して頂きたい。・・・②
- 災害時に、営農活動を継続するための支援や補助金の創設等の対応を早急に行って頂きたい。・・・①
- 長雨などによる用水路や池などへのつまり等に対して、早急な対応がとれる体制を構築して頂きたい。・・・③

### 3. 鳥獣被害防止対策について

#### 現状・課題

- ① 近年、鳥取県内の有害鳥獣による農作物等への被害額は増加している。
- ② 青壮年部で、被害防止に向けての学習会や、資格取得に向けた学習会などの取り組みが不足している。
- ③ 高齢化により電気柵、ワイヤーメッシュの取付や維持管理の作業が困難である。

#### 青壮年部で行うこと

- 資格取得に向けた取り組みや学習会を検討する。・・・②
- 学習会では、県内の実践事例集を参考に効果的な対策方法を検討する。・・・①、②
- 地域の守り手として鳥獣被害情報について盟友同士で共有し、被害防止に主体的に取り組むよう努める。・・・③
- 行政等の研修会を盟友内で情報共有し、積極的に参加する。・・・②

#### JAへの要望

- 盟友含む組合員に対する学習会を開催するとともに、地域・集落単位での対策がとれるように支援して頂きたい。・・・②、③

#### 行政への要望

- 鳥獣被害防止対策研修会を定期的を開催して頂きたい。その際には、WEB配信等、農業者でも参加しやすくなるよう配慮して頂きたい。・・・②

【参考：鳥取県の鳥獣による農作物等被害額の推移】（単位：千円）

	H29	R30	R1	R2	R3
イノシシ	51,015	67,696	58,167	72,570	48,408
シカ	3,017	4,034	3,430	5,017	7,334
クマ	1,248	3,590	5,076	3,891	7,924
ヌートリア	673	664	166	267	151
その他獣類	5,224	1,835	3,486	2,926	464
カラス	1,723	2,663	3,051	9,899	2,845
その他鳥類	422	117	40	8	7
合計	63,322	80,599	73,416	94,578	67,133

（出典：鳥取県農林水産部 HP より）



## 4. 農業者の収入増加について

---

### 現状・課題

- ① 急激な米価下落や肥料・飼料等生産資材高騰で収入減となり、水田・畑・果樹・家畜を手放し離農しそうな農業者がいる。
- ② D X（デジタルトランスフォーメーション）を活用した農業・情報発信がスタンダードになる中、個人で行うには難しく、また学ぶ場が必要である。

### 青壮年部で行うこと

- 販路拡大を目的とした広報宣伝強化に向け、SNSのPR方法やノウハウの研修をJAの職員と一緒に行う。・・・②
- 農業所得向上に向け、先進地・優良農家・経営モデルへの視察研修を行う。・・・①
- スマート農業に関する勉強会を開催する。・・・①、②
- 青壮年部自らも取引先を探し、代金回収や配送などでJAを巻き込んだ販路拡大に取り組む。・・・①

### JAへの要望

- 行政等と連携し、新たな特産品等を生み出し、儲かる農業へと発展させて頂きたい。・・・①
- 肥料・飼料等生産資材の高騰で経費がかさんでいる農産物に価格転嫁出来るように意見交換して頂きたい。・・・①
- 固定した販路にこだわらず1円でも高い販売先との取引を目指して頂くとともに、販売事業の専門職員を育成して頂きたい。・・・①
- 先進地等への視察研修やスマート農業に関する勉強会等を開催して頂きたい。・・・①、②

## 5. 若手農業者の理事登用と農業経営支援について

### 現状・課題

- ① 青年組織の代表としての理事はいるが、地域の代表理事は少ない。
- ② 若手農業者は、自身の経営が安定しないうちは組織活動に積極的に参加できない。
- ③ 行政の支援事業について、その事業内容を知らず、機会を逃している場合がある。また、農業経営基盤強化促進法等の改正など、農業経営に直結する法改正を積極的に学ぶ必要がある。
- ④ J A等で行われる農業簿記等の勉強会は日中開催が多く、参加が難しい。
- ⑤ 次代を担う後継者（継承者）を育成する勉強会などが出来ていない。

### 青壮年部で行うこと

- 組織活動の中で、将来の担い手として農業経営、支援事業、法・制度改正等についての研鑽を積む。・・・①、②、③
- 盟友・組合員として、積極的にJ A事業に参画し、我がJ Aの状況について把握し、J A経営への提言を行う。・・・①
- 円滑な事業継承を行うために必要なことを学ぶ場を作る。・・・⑤

### J Aへの要望

- 将来のJ Aを担う我々を積極的に理事登用して頂きたい。・・・①
- J A理事には、J Aや農業経営、農業関連法等についての知識が必要なことから、農業者が参加しやすい時間帯での勉強会を開催して頂きたい。・・・③、④

### 行政への要望

- 農業者の活用できる支援事業や経営に必要な知識（法・制度改正など）などを学ぶことができる機会を参加しやすい時間帯に設定して頂くとともに、相談窓口を設置して頂きたい。・・・③

## 6. 青壮年部の活動支援と情報発信について

---

### 現状・課題

- ④ 青壮年部の知名度向上を目指すにあたり、各種メディア媒体を活用したイメージアップ戦略が不足している。

### 青壮年部で行うこと

- ボランティア活動や、地域貢献活動に積極的に参加する。・・・④
- 青壮年部活動を積極的に外部へ情報発信するために、新聞や地上、TVなど各種メディアへの声掛けを行う。・・・④
- 全青協主催の看板コンクールや1分間動画に積極的に取り組み、それらを活用した情報発信を行う。・・・④

### J A への要望

- J A 内での活動場所を提供して頂くとともに、青壮年部活動を広報して頂きたい。・・・④
- 一般消費者に農業への理解促進を図るにあたり、場所と費用の支援をして頂きたい。・・・④
- J A についての対外広報にあたっては、青壮年部の盟友を積極的に活用して頂きたい。・・・④

## 7. 他の青年組織との連携について

---

### 現状・課題

- ① 商工会青年部、4Hクラブ等、多くの青年組織が存在しているが、各組織で会員が減少している中、各々で活動しており、連携はとれていない。

### 青壮年部で行うこと

- 各団体に参画する盟友が橋渡しとなり、各青年組織と話し合える場をつくり、青年組織同士、交流・相互研鑽を行う。・・・①
- 他組織との交流を行うとともに、連盟内での親睦を深めるため、スポーツ大会等のイベントを検討する。・・・①

### JAへの要望

- 青壮年部事務局は他の青年組織との連携のためにサポートして頂くとともに、事務局にも他組織との関係構築をして頂きたい。・・・①